

# 外国語のかじり心地

text by Shinji Ishii  
文いししんじ

英語でスペイン語を習うことになった。

こないだインドネシアに行ったとき、自分の英語のカタピシさび付き具合を思い知らされ、週に一度でも英語で誰かと真剣に一定時間話さんとあかん、と思いたった。日々わやわや京都へやってくるガタイのよい外国人のどなたかに声をかけ、一夜かぎりのアバンチュールを楽しむなんて、考えるだけで面倒くさく、しかも相手はその気に盛りあがられても、こっちはもう妻子がいるのでもう結構だ。よって、英語のいわゆる「レッスン」をつけてくれるすばらしくおもしろいひとが京都市内でいなかあ、と思っている最中、家族ぐるみで親しい、とある女性の旦那さんが、上七軒の舞妓さんに英語を教えている、という噂を耳にした。

その女性は、うちの一家じゅうで、京都でこのおねえさんがいちばんおもしろい、と定評のある女性で、彼女と旦那さんは、若い頃たまたま出会った旅行先であるチリで、電撃的

あぶら」と、自然に出てきたのに自分でも驚いた。きつと、深いところで馴染んでいたのだ。スペイン語は英語やヒンディー語とならんで世界じゅうでもっとも多くの一ひとに話されていることばだ（中国語は別格）。ちょっと身につけるだけで、友人知人候補が一気に4億人増える。

ただ、昔かじったのはスペイン語だけではない。えーっと、今日はアノことばにしよ、なんて思いついたら古本屋で語学書を買ひ、しばらくそればかり読んで、といった体の語学マニアだった。

フランス語は、大学で専攻したはずが、ふわふわ曖昧に、からだになじまない。芯のほうに入っていない感じ。風月堂のゴルフのまわりばかりかじって奥へ進めない、そんなイメージ。

アラビア語はひたすら響きがつくしい。喉がだんだん金管楽器みたいになってくる、工芸品みたいなことば。ペルシア語は逆に、天から吹き下ろし砂塵を巻き上げる風みたいな響きだ。会話すると、風と風がぶつかりあい、ぐるぐるつむじ風がまわりだす。

イタリア語はからだでしゃべる。というか

に結婚した、という経験をもつ。どんなことであれ電撃的な流れに乗れるひとに「おもんない」ひとはいない。

家を訪ねると、旦那さんのジョンさんは紅茶をいれてくれた。ジョンさんはカナダ生まれのひとで、僕の自転車をみて、これは旧いけどいい自転車だ、きれいに乗ってる、とほめてくれた。

「わたしも自転車が好きで、昔、よく乗ったもんだ。バンクーバーの場所、わかる？」

「はい」

「そこから、モントリオールまで自転車で走った。1350キロ」

「は？」

「10日かけて。毎日100キロと少し」

発音するからだがその語のかたちになっってしまう。波打ち、揺れ、伸び縮みし、かの国のひとがかように音を、音楽を生きていることがブオノ(Buono)わかる。さらにすごいのが古代ギリシア語。決まった抑揚で話すと、会話のそれぞれが自然に「うた」「詩の朗読」になってしまふ。ソクラテスやペリクレスはアテネを歩きながら詩をうたっていたのだ。

ほかにもいろいろかじったが、語学の才能はまったくない。ほとんど身につけていないことばでそれは明白。ただ、世界じゅうで話されていることばがどんなか、自分のからだでたしかめたかった。熱中しているあいだ、わりと本気で、その国のことばからだと好きになる。オリンピックのときなど、応援する

バンクーバーからモントリオールといえばカナダを東西に横断することになる。は？」

「それで帰るも、自転車こいで帰ったの？」

「いやー、そこから飛行機に乗ったよ」とジョンさん。「コロンビアまで、それで、南米大陸の西岸を南へ南へ走って、それでチリについてんだ」

はあああつ？

僕は一も二もなくジョンさんに「レッスン」をつけてくれるようお願いした（生き方もふくめ）。英語でスペイン語を、というのは、ただ英語で長々話すより、別の言語を学ぶほうが、やる気というか、姿勢というか、場の緊張感がちがうような気がしたのだ。それに20年ほど前、スペイン語をかじったことがあって、ジョンさんの聞いた古いテキストの、語学の活用表を見てすぐ「あぶら、あぶらす、

国が多すぎてからだがかまる。

語学の天才、というひとはいない。イタリア在住のとある女性がそんなひとで、どんな国のことばでも、たぶん三日きけばだいたいの日常会話ができる。僕も見たし、他のひとに聴いてもそういうから間違いないことだが、そのひとが座っているとき、椅子の座面から3センチほど宙に浮いている。地面に縛られず、この星のどんなところにも、ことばの羽根で渡っていける天使なのかもしれない。



チリ共和国



面積: 756,000km<sup>2</sup>(日本の約2倍)  
人口: 1,795万人(2015年 世銀)  
都: サンティアゴ  
族: スペイン系75%, その他の欧州系20%, 先住民系5%  
語: スペイン語  
教: カトリック(全人口の88%)



### Profile

1966年大阪生まれ。京都在住。著書に小説「ぶらんこ乗り」「麦ふみクーツエ」「ポーの話」「みずうみ」「四とそれ以上の国」など、エッセイ「人生を救え!」(町田康共著)「熊にみえて熊じゃなし!」「選い足の話」、絵本に「赤ずきん」(ほしよりこ絵)など多数。